

誰でもどこでも ~いにしへの工法で食糧生産をささえる~

青森県立名久井農業高等学校

私たち環境研究班FLORA HUNTERS AQUAは、SDGsとエシカル消費の考え方に基づいて途上国の抱える食糧問題解決に貢献することを目的に環境配慮型の農業技術開発に取り組み、世界に情報発信をしています。

1 プロローグ

開発途上国では
気候変動や
人口増加による
深刻な食糧問題を
抱えています。



「今だけ、ここだけ」の安易な
開発や支援は**持続性**に欠け
環境負荷も大きいもの。
開発・支援側の**つくる責任**、
利用する側の**つかう責任**を
考えた技術開発が必要です。



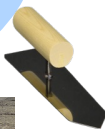
2 現在の取り組み

先人が考案した「いにしへの工法」に注目

キーワードは
「誰でも、どこでも」

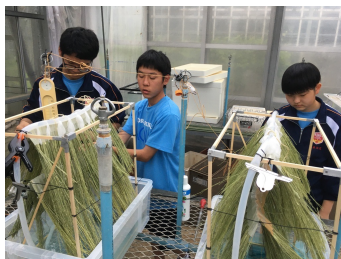
土壤流出抑制技術

雨季、降雨で農地から土壤流出。
そこで消石灰で土を固化させる簡
易堤防を開発。開発のヒントは、
先人が日本家屋の土間に使った
三和土工法です！
(たたき)



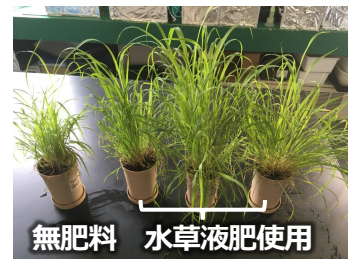
富栄養化湖沼 液肥化プロジェクト

肥料の世界的高騰に苦しむ農家。
そこで途上国に多い富栄養化池
沼を太陽光で濃縮し液肥にする
技術を考案。開発のヒントは古い
製塩技術 **枝条架法**です！



淡水水草液肥技術

途上国の池沼の淡水水草を
収穫し、短期間で液体肥料
を製作。開発のヒントは古来
の日本伝統文化
藻刈りです！



3 啓発普及活動

開発した技術は、Webで
世界公開。さらに水の国
際大会に日本代表として
出場。**エシカル**の考えに
基づいた開発と利用を校
内外に紹介しています。

Flora Hunters Aqua



ストックホルム青少年水大賞

スウェーデン
皇太子様から激励

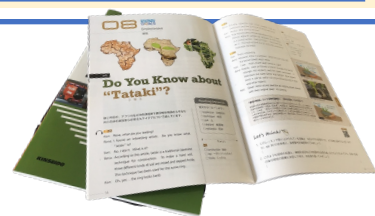
2022年、高松塚古墳の漏水防止技術を応用した乾燥地向けの塩害抑制システムを世界に公開。環境に配慮した生産消費を訴えました。

■ 沖縄の農家や環境団体、高校生の依頼を受け、連携して三和土による簡易堤防を設置。コンクリートと違い土に戻る伝統工法は、全国から注目された。現在は地元高校生が子供たちに伝える活動に発展しています。

4 まとめ

開発途上国で人や社会環境等に配慮した消費行動を進めるには**エシカル**の考え方に基づく開発、支援、利用が必要です。**活動を始めて10年**。グローバルな視点で研究開発に取り組む私たちにとってSDGsとエシカルは**大切な指針**となっています。

| | |
|----------------|------------------|
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 12 つくる責任 つかう責任 | 13 気候変動に具体的な対策を |



■ 私たちの取り組みが教科書や学習参考資料に掲載され、大きな自信に繋がっています。